

山吉 頌平 准教授
博士(文学)

Shōhei Yamayoshi

✉ shohei.yamayoshi@komatsu-u.ac.jp

研究
Keyword

日本文学、寺社縁起、山岳信仰、偽書

プロフィール

2023年 早稲田大学 文化構想学部 多元文化論系 助手
 2024年 早稲田大学大学院 文学研究科 日本語日本文学コース 博士課程 単位取得満期退学
 2025年 早稲田大学 文化構想学部 複合文化論系 講師(任期付)
 2026年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授

研究分野

日本文学

所属学協会

越中史壇会、藝林会、説話文学会、中世文学会

専門分野・研究分野

寺社や霊地の自己像を探る

寺や神社が自身の来歴を語る言説を、寺社縁起と称します。私は北陸地方の寺社を中心とした寺社縁起を研究しています。縁起は時代ごとに改訂されたり、他の文学作品などが摂取されて増補されるなどして、内容が変化していきます。何か一種類の特定の縁起を読むだけではなく、その寺社で作られた数多くの文献や教説、あるいはその寺社に影響を与えた他の集団の縁起など総体的に読み解くことで、縁起がどのように形成され、読解されてきたのかが浮かび上がってきます。

研究内容

様々に展開していく探究の面白さ

私の研究の原点は、富山県の霊山、立山の縁起にあります。卒業論文以来取り組んでいる分野ですが、まだまだわからないことがたくさんあり、研究も予想外の方向に展開していくことがあります。たとえば、立山の縁起の一部が、遠く島根県は隠岐島の神社で作られた南北朝時代の縁起に記されていると学界で紹介されたことがありました。私も先行研究を踏まえ、この島根県の縁起を読み始めましたが、ふとしたことから、その引用されている立山縁起が、室町時代の浄土宗の教理書から転載されたものだ気がきました。さらに調べると、立山縁起以外の数多くの箇所も、他の文献から出典を示さず転用されていることがわかりました。そうしたことから、この縁起が江戸時代につくられた偽書なのではないか、と思い当たりました。縁起という文献に書かれている内容を分析するだけでなく、縁起という文献自体の真偽や成立過程を精査することで、別次元の問題が浮かび上がってくる—そうしたところに、縁起研究の奥深さがあるのかと思います。



写真1. 奥能登の「田の神さま」神事 (石川県能登町、震災前)



写真2. 平泉寺白山神社の雪にうもれた鳥居 (福井県勝山市)



「偽物」も「本物」も、すべてを調べる。

シーズ・地域連携テーマ例

- 日本の古典、北陸の歴史・文芸

論文

- 「丹表紙本『高田大明神縁起』の成立年代について」, 山吉頌平, 説話文学研究, 58, 201-211, 2023年
- 「加賀国大野湊神社縁起の変遷」, 多元文化, 13, 66-81, 2024年
- 「気多大社における吉田神道説受容の具体相——『気多神社古縁起』と謡曲〈鶴祭〉の分析から——」, 早稲田大学大学院文学研究科紀要, 70, 127-142, 2025年

講演・口頭発表等

- 「謡曲『善知鳥』と『太平広記』—「片袖幽霊譚」の源流をめぐって—」, 山吉頌平, “中日古典學交流與融通工作坊” 第四屆學術研討會 (第4回中日古典学ワークショッププログラム), 2023年11月7日
- 「Exploiting the Epidemic — The Spread of Smallpox in the Nara Period Described in the Anecdotes of Priest Taichō」, 山吉頌平, 日仏シンポジウム「病とその表象」2024年1月12日
- 「『白山大鏡』に見える泰澄の正統性」, 国際シンポジウム「東アジアの文芸における正統観」2024年3月7日
- 「『立山地獄説話』の再検討」, 山吉頌平, 令和7年度 越中史壇会研究発表大会, 2025年8月24日

競争的資金等の研究課題

- 「中世立山信仰の探求 近世縁起の分析を中心にして (富山の文化枠)」, 富山県 令和4年度「高志プロジェクト」, 2022年4月—2023年3月
- 「立山縁起の系統論樹立のための岩峠寺系縁起の調査」, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援, 2023年8月—2025年3月